

# 西光寺だより

第一六六号 令和六年 六月一日発行

あつという間に一年の半分、六月となりました。

六月という季節は梅雨の時期でもあり、降り注ぐ雨の中に美しい紫陽花の姿を見ることが出来ます。季節を感じることに、美しいものをそのまま美しいと見られることに思いを寄せることであります。

## 紫陽花や きのふの誠 けふの嘘 正岡子規

紫陽花は、時期によって花の色が移り変わる様子から「七変化」の別名を持ち、その変化ゆえ花ことばは「無常」であります。

昨日はまこと（真実）だと思っていたことが、今日ほうそ（偽り）になってしまふ。人の心の移ろいやすさや、はかなさを詠んだ先人の句であります。

私たちは日常の中で、昨日まで信じていたものに、今日裏切られたり、昨日まで大丈夫だと思っていたことが、今日はそうじゃなかったりというような経験をすることがあります。

また、生老病死の営みをとおして、生まれては消え、来ては去って行くことや、ものに狼狽し、苦悩する存在です。

この世はまさしく「きのふの誠 けふの嘘」  
「諸行無常」そのものといえます。

もしかすると「諸行無常」という言葉には（滅びる）（死ぬ）というイメージがあるかもしれませんが。

しかし、本来は「すべての物事は一瞬もとどまることなく変化し続けている」という、この世のありのままの真実を表す言葉なのです。成長や進歩という変化も、無常の一側面です。

だからこそ努力や精進に意味があるのです。  
ある東京で長年おいしいと評判のラーメン店・春木屋の秘訣について、

「お客さんの味覚は常に変化しているのだから、『いつも変わらず美味しい』と言われるためには、基本の味は変えずに、常に味を研鑽して変わり続けなければならない」

という創業者の言葉があります。

この言葉は「春木屋理論」として世に広まっていますが、「変わり続ける」という自覚が「変わらない美味しさ」を生み出し、未来へ向かう力となることが実によく表現されています。

「すべての物事は変化し続ける」というありのままの真実に立脚することで、開かれる未来があるのです。 〈本願寺新報〉

私たちも美しい色彩で移り変わる紫陽花の花のように、そのさまざまな変化を楽しんだり、思いや考え方を柔軟に変えていくことを心掛けながら、歩んでいきたいと思うことであります。



## ◆先月の報告◆

五月二日（木）午後六時から西光寺本堂にて西光寺講総会を行いました。コロナ禍で中止が続く、文書での報告となりましたが、この度、久しぶりに行うことが出来ました。

多くの講の方々に来ていただきました。予算報告、行事報告、そして新たな役員を選出など多くの議案について意見交換し、話し合いが出来ました。

また、この度の総会では予算にばらつきがありました講金について意見議論がありました。

毎年の集金額を講師の方々で公平に計算し、一律8000円にする改革についての議論であります。さまざま意見がありました。議長はじめ総代・役員の方々の皆さまのご協力のもと多くの賛同をいただきました。

なお6000円の講金が8000円に変更になる方には丁寧にお伝えしながらこの総会で決定したことを伝えていければと思うことでもあります。

また、長年西光寺講規約について、時代の流れや言葉の言い回し、そしてこの度の講金一律化など変更点が多数あったことも引き続き議論されました。それらの貴重な意見をもとに、今年度中に新たな西光寺講規約を策定し講師の皆さまに配布できたらと思います。

今まで通りにはなかなかいかないことありますが、この西光寺は総代の皆さま、講師の皆さま、そしてご門徒の皆さまのお力添えがあるからこそ永代経や報恩講といったさまざま法要行事ができ、護持運営が成り立っています。

この度の話し合いを大切なご縁といただき、皆さまと共に歩んでいけたらと思うことでもあります。

議長はじめ総代の皆さま、そして役員講師の皆さま、そしてご門徒の皆さま、これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。  
ありがとうございました。

合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>



## ◆七・八月の行事◆

・八月 十五日(木)

孟蘭盆会法要

午後六時～

西光寺本堂